

(公社) 日本給食サービス協会会長賞

『ありがとうハンバーグ』

茨城県神栖市立横瀬小学校 五年 女子 関川 優里

わたしには、心に残る給食のこんだてがあります。そのこんだてとは、ハンバーグです。どうしてかというと、わたしは、1年生のときでは、同じクラスで仲の良い子は少なく、給食のグループでは、ほとんどの子と話したことがなく、給食では、ほかの子が友達と話している中、わたしは、1人きみしい気持ちで給食を食べていました。ある日、給食にハンバーグが出た日のことです。わたしは、1年生の時に一番大好きな食べ物がハンバーグだったのでハンバーグが出たとき、とてもうれしかったです。初めて食べる学校のハンバーグはどのような味をしているのだろう。おいしいのかな？そんなことを思っていました。そのハンバーグを食べてみると、想像した以上においしかったあまり、いつも無言で食べていたのですが、声に出して「このハンバーグとってもおいしい！」と言ってしまうました。そのときわたしは、急に「このハンバーグとってもおいしい！」と言いだして、おかしな人だなと思われるしまい、友達ができなくなってしまうと思いましたが。どうしよう、友達ができなくなったらいやだなという気持ちでいると、とつぜんななめ前の席の子が「本当だ！すっごくおいしいね。」と声をかけてくれました。そして他の子も、「おいしいね。」などの声をかけてくれました。その時初めて給食でみんなと話せました。その時、とてもうれしかったです。給食の時みんなと初めて話せた日からわたしは同じクラスの友達がどんどんふえました。わたしは、友達がどんどんふえたのは、あのときに「このハンバーグすっごくおいしい！」と言っていたからだと思います。もしあの時、「このハンバーグすっごくおいしい！」と言っていなかったら今わたしには、友達は少ないままだったと思います。わたしは、今、ハンバーグにかんしゃしています。わたしは、ハンバーグにこういいたいです。「ありがとう。ハンバーグ」と。